



令和4年3月1日選定

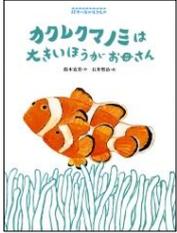
# 図書館員が選ぶおすすめの本 ～低学年向け（小1,2）～



## 「カクレクマノミは大きいほうがお母さん

絵本・海の生きもの」

鈴木克美 // 作 石井聖岳 // 絵 あかね書房



カクレクマノミのかぞくでは、いちばん大きいのがおかあさんで、つぎに大きいのがおとうさん。それは、なぜなのかな？ カクレクマノミは、かわいだけじゃない。とってもふしぎなさかななんです。

## 「じゅげむ 落語絵本[4]」

川端 誠 // [作] クレヨンハウス



わが子にめでたいなまえをつけたいとおもったおとうさんは、おしょうさんにそうだんして、ものすぐながいなまえをつけました。いそいでいるときにもこのなまえでよばなくてはならないから、さあたいへん。くりかえすながいなまえにおもわずわらってしまいます。

## 「やまなしもぎ」

平野 直 // 再話 太田大八 // 画 福音館書店



びょうきのおかあさんのために、おくやまのやまなしをもぎにいくことになりました。まずはたろうがでかけますが、いつまでたってもかえってきません。つぎのじろうもかえってきません。そこで三ばんめのさぶろうがでかけることになり…。

## 「クッキーのおうさま」

竹下文子 // 作 いちかわ なつこ // 絵 あかね書房



にちようび、りさちゃんはおかあさんとクッキーをつくりました。ざいりょうをまぜて、ほしやハートにくりぬいて、のこりはまとめてにんぎょうのかたちにやきました。ところがオープンからとびだしてきたのは…。

## 「ずーっとずっとだいすきだよ」

ハンス・ウィルヘルム // えとぶん 久山 太市 // やく 評論社



ぼくと犬のエルフィーは、まいにちいっしょにあそんで、いっしょに大きくなった。でもエルフィーはだんだんとしをとって、とうとうしんでしまったんだ。ぼくはかなしくてたまらなかったけど、いくらか、きもちがらくだった。それはね…。

## 「エルマーのぼうけん」

ルース・スタイルス・ガネット // さく ルース・クリスマン・ガネット // え わたなべしげお // やく 福音館書店



どうぶつじまにとらわれているりゅうの子どものはなしをきいたエルマーは、ひとりですけにいくことにしました。エルマーはちえをつかってこわいどうぶつたちにたちむかっていきます。はたしてりゅうをたすけることはできるでしょうか？

## 「しょうたとなっとう」

星川ひろ子・星川治雄 // 写真・文 小泉武夫 // 原案・監修 ポプラ社



あるなつの日、しょうたはじいちゃんといっしょに、だいのたねをまきました。だいができたら、じいちゃんがとっておきのへんしんをさせて「まほうのたべもの」になりました。それはしょうたがだいきらいな「なっとう」で…。なっとうができるまでがよくわかるえほんです。

## 「番ねずみのヤカちゃん」

リチャード・ウィルバー // さく 松岡 享子 // やく 大社 玲子 // え 福音館書店



ドドさんの家のかべとかべのすきまにくらすねずみの一家。四ばんめの子ねずみのヤカちゃんは、おかあさんねずみからいくらいわれても、大きなこえがでてしまいます。ねずみがいることがしられたら、きっとただではすまないというのに。ところがあるばん…。

※対象年齢は目安です。

